

## 研修会名：脳科学から身体性システム科学へ

### <研修概要>

日 時： 2019年5月25日（土）  
時 間： 研修3 17:40~20:40  
会 場： 徳島文理大学 むらさきホール

大会参加費のみ

研修形態	講義のみ		
予約申し込み	不要	予約定員	0人
予約費用	0円		
無料聴講	あり	聴講定員	800人

講 師： 森岡 周 氏（畿央大学大学院）

### <研修内容>

「私の身体のように思えません」「この身体は思うように動いてくれません」といった自己意識は、患者の病態を示す発見的データです。大なり小なり、脳卒中患者はこうした意識経験を有していることは現象学的に自明です。哲学で議論されてきた身体意識や身体性（embodiment）は、Gallagher（2000）によって「自分の身体が自分のものであるという所有の意識（身体所有感；sense of ownership）と「この自分の運動を実現させているのは自分自身であるという主体の意識（行為主体感；sense of self-agency）」に区別されました。

近年、脳科学は身体性システム科学へと発展することによって、身体所有感は視覚、体性感覚、感覚予測等の情報の時・空間的一致、行為主体感は運動指令に伴う遠心性コピーと行為の結果として起こる動きの知覚の時間的一致によって起こることが明らかになりました。また、最近になって、このような情報間の不一致による身体所有感や行為主体感の低下は、皮質脊髄路の興奮性の低下（Weiss, 2014）や筋活動の低下や運動リズムの緩慢化（Osumi, 2017）をもたらし、身体意識の変容が運動制御に影響することが明らかになっています。

今回、このような基礎的知見を自験データも含めて解説すると共に、身体性システム科学と理学療法・リハビリテーションの接点を解説し、脳血管障害に対する理学療法・リハビリテーションのあり方のみならず、リハビリテーションの本質的意味である「人間復権（私らしく生きるということ）」についてこの研修を通じて考えていきたいと思っております。